

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870500414
法人名	新居浜医療福祉生活協同組合
事業所名	グループホーム香り草
所在地	新居浜市新田町二丁目8番24号
自己評価作成日	平成27年10月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年11月11日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

古民家を改修した建物で、利用者が今まで暮らしてきた生活感を大切にしている。また、住宅地の中にあり、庭に出れば近所の方と挨拶できる環境にあり、地域の中で当たり前の暮らしができるよう工夫している。

休止していた「山椒の会」（家族会）は、前回の評価実施後、ご家族に趣旨を説明して取り組みを再開している。管理者は、ご家族との交流の機会、又、意見や要望を聞く機会として取り組みたいと考えており、芋炊きや敬老会等の行事と合わせて行い、ほぼ全員のご家族の参加がある。ご家族から「認知症の方への関わり方が知りたい。」との希望もあり、次回2月には、外部講師を招いて勉強する機会を作る予定となっている。

散歩がお好きな利用者は、自由に出入りしているが、以前に比べ道に迷ったり、自分の居場所が解らなくなることが増えたため、職員やご家族と話し合い、一人で出かける際には、首から提げるタイプのGPSを携帯してもらうようにした。利用者が出掛けたら、同時に時間を確認し、天候や気温を考慮しながら約30分毎にご本人の居場所を確認している。普段の散歩コースや行動範囲外に居ようなら職員が捜しに出て対応している。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. <b>毎日ある</b> 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. <b>利用者の1/3くらい</b> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. <b>ほぼ全ての利用者が</b> 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等がサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. <b>ほぼ全ての利用者が</b> 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム香り草

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名

菰田 八千代

評価完了日

27 年 10 月 20 日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) リビングと廊下に掲示しており、理念の共有と実践を心がけている。	
			(外部評価) 開設当初つくった「自分がされていやなことは人にはしない。」という理念を居間に掲示している。又、5項目の年間目標と、2項目の月間目標を立てて理念の実践につなげて取り組んでいる。毎月、職員が集まる意見交換会で目標が達成できたか自己評価を行い目標の見直しを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会に加入し、地域の行事や運動会、お祭りなどに参加し、地域の一員として交流している。	
			(外部評価) 地域の方達に、利用者と顔見知りの関係になってもらえるように、事業所では、周辺の地域資源を積極的に利用することに努めており、散歩や買い物時に、声をかけてくれる方が増えている。又、近所の方は、新聞で折ったくず入れをや古布、野菜等を持って訪ねて来てくれる。地域行事は、回覧板で知ることができ、利用者と職員で次のお宅にまわしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議等での研修報告や勉強会等を取り入れて、地域の人たちとの交流を深めている。また、近隣の方々からの相談を傾聴し、必要に応じてアドバイスを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 新しい地域の方々にも関わっていただき、勉強会や意見交換をしている。</p> <p>(外部評価) 会議は、基本的に奇数月の第3水曜日、10時半～11時半に行っている。近所の方、公民館長、地域の消防の方、生協の組合員、市の担当者等の参加がある。前回の評価実施後から、ご家族全員に案内状を手渡ししており、数名のご家族の参加につながっている。又、会議内容は、メンバーに興味を持ってもらえるように、「うちエコのすすめ」「成人の健康作り、生活習慣病予防について」等、市の出前講座等を併せる等して取り組みに工夫をしている。ご家族は「こんなに沢山の地域の方が事業所に協力してくれている事を会議に参加するまで知りませんでした。」と驚かれたようだ。公民館長から「小学生との交流をしてはどうか。」と提案があり、館長が仲介をしてきている。管理者は、ご家族の参加も増えてきているので、「今後は、認知症サポーター等の講座も開催していきたい」と話していた。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に参加していただき、事業所の運営に係る相談・指導等、連携に努めている。</p> <p>(外部評価) 2ヶ月に1回介護相談員を受け入れており、利用者のお話を一対一で聞いてくれている。利用者は、相談員に昔のご自分の話をすることが多いようだ。市の担当者は運営推進会議時に、「介護ボランティア制度」等、市の取組みを説明してくれている。運営推進会議や敬老会時に、市の「出前講座」を依頼しており、新居浜に馴染みの深い「一宮神社の小女郎たぬきの昔話しや踊り」を利用者、ご家族と楽しんでいる。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束マニュアルに従って業務を行い、意見交換会を通してスタッフへ周知徹底をしている。</p> <p>(外部評価) 調査訪問時には、玄関や掃き出し窓は網戸にして開放していた。散歩がお好きな利用者は、自由に出入りしているが、以前に比べ道に迷ったり、自分の居場所が解らなくなることが増えたため、職員やご家族と話し合い、一人で出かける際には、首から提げるタイプのGPSを携帯してもらうようにした。利用者が出掛けたら、同時に時間を確認し、天候や気温を考慮しながら約30分毎にご本人の居場所を確認している。普段の散歩コースや行動範囲外に居ようなら職員が捜しに出て対応している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  意見交換会にて利用者さんの現状の把握と状況を協議し、職員間で情報を共有している。 一人ひとりの人格を尊重した対応を心がけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  権利擁護に関する研修等に参加している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  ご意見箱を設置。 利用者さんや家族からの意見や要望があれば、臨時で意見交換会を開き、外部の人たちの意見なども盛り込んで協議している。	
			(外部評価)  休止していた「山椒の会」(家族会)は、前回の評価実施後、ご家族に趣旨を説明して取り組みを再開している。管理者は、ご家族との交流の機会、又、意見や要望を聞く機会として取り組みたいと考えており、芋炊きや敬老会等の行事と合わせて行い、ほぼ全員のご家族の参加がある。ご家族から「認知症の方への関わり方が知りたい。」との希望もあり、次回2月には、外部講師を招いて勉強する機会を作る予定となっている。毎月ご家族に送付する「香り草便り」について「写真で良く解る」「母の笑顔が良い笑顔をしている。」「毎月楽しみにしています。」と感想がある。今後は、ご家族へ満足度調査としてアンケートを実施したいと考えていた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			事前に職員の意見をまとめ、月に1回の意見交換会で協議している。	
			(外部評価)	
			毎月第一火曜日に行っている意見交換会時に、職員は気付いたことや意見を出している。研修案内は、職員間で回覧している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			働きやすい職場にするため、コミュニケーションを大切に、明るく楽しい職場づくりに努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			いろいろな研修に積極的に参加してもらい、実践に生かせるように意見交換会等で職員へ報告し、共有している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			法人内のグループホーム会に参加し、情報交換等行うことでサービス向上に努めている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入所前に、短期入所してもらうことで事業所の雰囲気に馴染んでもらうよう努めている。 短期入所でなくとも、事前に見学などをしてもらい、雰囲気を知ってもらうよう努めており、本人からの要望などには直接伺うよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時に家族から、今後の要望等を遠慮なく話せるよう配慮し、サービス計画に反映するよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 必要としている支援を具体化し、サービス計画を立ててそれに基づいて対応するよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「人生の先輩」として尊重し、支えあう関係づくりをしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族が気楽に立ち寄ることができ、楽しいひと時が過ごせるよう配慮に努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 古くからの友人、地域の方々、隣人等気軽に立ち寄ることができるよう支援している。	
			(外部評価) 婦人会で活躍していた利用者もおり、現在も仲間が会いに来てくれている。その中には、運営推進会議に参加してくれている方もある。事業所は、利用者をご家族と一緒に過ごす時間を大切にしたいと考えており、ご家族の帰り際には、利用者の嬉しかった気持ちを代弁して伝えている。又、ご家族に、「お正月には半日程、ご自宅で過ごされてみませんか?」「初詣にご家族で外出してみませんか?」と提案して、お正月をご家族と過ごせるような支援に努めている。「家族だけでは不安」というご家族には、管理者が同行している。利用前に通っていたデイサービスから行事案内があり、利用者数名で参加して以前の友人とおしゃべりしたり、系列グループホームの運営推進会議に参加して馴染の人が増えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	毎朝、みんなでラジオ体操を楽しんでいる。職員や利用者全員がすることで一体感が生まれ、通じ合うものがある。
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	退所しても、ご家族からの相談等があれば受けて、助言やアドバイスの支援に努めている。
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	利用者の今までの歴史を探り、家族との関係を大切に、本人にとって安らげる場所になるよう努めている。意向確認ができない場合は、本人にとって一番良いと思われる暮らし方を検討している。
			(外部評価)	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	これまでの暮らし方やご家族との関係を探り、サービス利用内容等の把握に努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	心身の状況を日々観察し、現状の把握に努め、必要に応じて声かけをしている。



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 本人や家族の意向を確認し、関係者等と協議しそれぞれの意見を出し合い、今後の課題等を盛り込んで介護計画を作成するよう努めている。</p> <p>(外部評価) 介護計画は6か月ごとの見直しと、状態変化時は随時見直している。計画作成担当者が、計画作成前に、ご家族や利用者の希望を聞き、管理者、利用者担当職員、その日の出勤職員で担当者会議を開き意見等を反映して作成している。入居間もない方や対応に難しさがあるような方については、以前のケアマネジャーに相談するようなこともある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々の状態を記録し、スタッフ間で情報を共有し、問題があれば計画の見直しに活かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人や家族のニーズに対応できるサービスを検討し、多職種との連携を図ることにより、事業所の多様化に努めている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域住民と密接な関係を作り、気軽に事業所へ出入りし交流が持てるよう支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 訪問看護ステーション(24時間対応)や、かかりつけ医との連携を図り、関係を築くことで適切な医療が受けられるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 訪問看護ステーションと連携しており、利用者の気になる状態を連絡すると必要時には医師に連絡して対応してもらうようになっている。協力医は月2回、往診にきてくれている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 訪問看護ステーションとの連携を図り、必要に応じて相談し、アドバイスを受けている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院時、家族やソーシャルワーカー等と連携して情報交換をしている。 また、退院に向けての情報交換や相談も密に行っている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 医療機関や家族、スタッフが連携し、ターミナルに向けた意見交換を行い、今後の生活のあり方を協議しチームで取り組んでいくよう努めている。</p> <p>(外部評価) 終末期のあり方については、入居時に、利用者やご家族に希望をお聞きし、さらに、年1回、意向確認を行っており、多くの利用者が最期まで事業所で過ごすことを希望している。現在2名の利用者が終末期を過ごしており、調査訪問時には、ご家族が来られて付き添っている様子が見られた。職員は、「耳は聞こえているので声を掛けてあげてくださいね。」「手を握ってあげてくださいね。」とご家族に話して、利用者とのふれ合いを大切にされた支援に取り組んでいる。</p>	<p>終末期のあり方について、ご家族や利用者に意向は聞いていますが、管理者は、さらに具体的に話し合う機会を作る必要性を感じていた。話し合いを重ねて方針を共有し、利用者やご家族の希望に沿った支援に努力されてほしい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)  実践力が身につく研修に参加し、スタッフ間で共有するよう努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)  昼夜問わず、非常時の避難訓練を実施している。また、運営推進会議などで地域の方に、非常時には避難等の協力をしてもらおう周知し、地域と協力して災害対策に努めている。	
			(外部評価)  年2回、9月、3月に火災想定で避難訓練を実施している。運営推進会議に参加している地域の消防の方が災害時必要となるヘルメットを用意してくれて、夜間でも安全に避難出来るようライトを取り付けてくれた。又、事業所の裏手に整備されているウッドデッキから安全に避難できるようにスロープを設置した。運営推進会議時には、参加メンバーに避難手順や経路を説明している。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)  一人ひとりの性格や気持ちを汲みとり、笑顔で接し、利用者が安心できるよう優しい口調で接するよう努めている。	
			(外部評価)  職員は、利用者の目線に合せ笑顔で対応することを心がけている。調査訪問時、耳の聞こえにくい利用者に対して、耳元でそっと声をかけている様子が見られた。10時と15時のおやつの中には、利用者個々にコーヒーやココア等を選んでもらいお茶の時間を楽しめるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)  常に声をかけて、表情や仕草で思いや希望を汲みとり、少しでも自分で決めることができるよう促している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースに合わせて希望に添えるよう工夫して対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その人らしい衣類等を職員と一緒に選んでいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食後の後片付けを職員と一緒にしている。(洗い物等)	
			(外部評価) ひと月の半分程度は、業者から決まった献立で食材が届き調理をしている。その他の日は、利用者に希望を聞きながら職員が献立を立てて食事を作っている。調理専門の職員を配置している。利用者は、ちらし寿司やお刺身がお好きで、誕生日や秋祭り等、必ずお寿司を希望され、定番メニューとなっている。花見や紅葉狩り等には、利用者と一緒に弁当を作り出かけている。利用者からは「外で食べると美味しい。」と好評のようだ。野菜嫌いの方には、少しでも食べてもらえようにマヨネーズを付けたり、又、スムージーを試してみた。スムージーは、全利用者が気に入って、その後から毎朝食時に作っており、野菜嫌いの方も野菜摂取できるようになり、便秘がちだった方も薬を減らしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分量や食事形態、食事量も個別に把握し、一人ひとりの状態や習慣に応じた支援に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアや口腔マッサージで清潔を保持し、誤嚥予防に努めている。 また、週2回口腔リハビリも行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 個別に排泄の時間を探り、声をかけたり誘導したりして自身で出来るよう支援している。</p> <p>(外部評価) ご自分で立ち上がることが困難な方から、トイレでの排泄の希望もあり、日中は職員2名で介助して支援することに取り組んだ。現在は、立位が少しずつできるようになり、職員1名で介助して支援している。尿意等を訴えない利用者については、排泄チェック表を確認して誘導している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 体調に応じた食事提供や、野菜ジュース等で水分を補給している。 毎朝、全員でラジオ体操を行っている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 入浴日は決まっているが、その日の体調等を考慮した入浴支援をしている。</p> <p>(外部評価) 月、火、木、金曜日の午前中が入浴日となっているが、汗をかいったり、ご自分で入浴する方は毎日入る方もある。夏場は、スッキリして就寝できるようシャワーを浴びる方もいる。中には入浴を嫌がる方もいるが、ご家族がきれいな服を用意してくれたことを伝えたりしながら工夫して誘っている。浴槽が深めの造りということもあり、怖がるような方もいるようで、シャワー浴のみの方もいる。</p>	<p>利用者が安全に安心して入浴を楽しめるように、介護技術の向上に取り組んでほしい。管理者は、利用者が浴槽で温まれるように介護技術講習会等を検討している。</p>
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 一人ひとりの生活リズムや生活習慣に合わせて、過ごすことができるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)  処方箋に目を通して、効能や投薬方法を職員が把握し、共有するよう努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)  洗濯物をたたんだり、食器を洗ったり、地域の商店へ買い物に出かけたり、利用者に応じて支援し、支援してもらっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)  家族との外出を楽しんだり、職員同行でドライブや外出などに出かけるよう支援している。	
			(外部評価)  天気が良い日には、散歩したりおやつを買いに行ったりしている。又、時には、ショッピングモールに出かけてソフトクリームを食べて帰るようなこともある。季節ごとにお花等を見に出かけており、数名づつ、又、仲の良い利用者同士等、一人ひとりが楽しめるように配慮して計画を立てている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)  買い物等に出かけ、自分の欲しいもの等を選んで楽しませている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)  実績はないが、必要に応じて対応するよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共有の空間には季節の花や写真、利用者の描いた絵などが飾っている。 台所から調理の音や匂いを感じ、生活感あふれる環境づくりに努めている。	
			(外部評価) 民家改修型の事業所で、居室の入口や玄関等に段差を利用して日常生活の中で下肢筋力維持につなげている。秋の太鼓祭りがお好きな利用者が多く、調査訪問時、居間では今年行われた太鼓祭りのDVDを流しており、利用者は「すごい」等、感想を話しながら見ていた。天気の良い日には、庭やウッドデッキに出て日向ぼっこ等して過ごすことも多い。居室が居間に面しており、居室でおむつ交換した後は、消臭スプレーを使用して臭いに気を付けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 気の合う利用者さん同士が会話したり、テレビを観たり、ゲームをしたりして過ごせるよう配慮に努めている。	
			(外部評価)	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には思い出の品を飾り、落ち着いて過ごせる生活空間になるよう工夫をしている。	
			(外部評価) 民家改修型事業所でもあり、一部屋を区切っている部屋や個室の部屋等、それぞれに違いがある。ベッドは備え付けで、その他はご自宅から持ち込んでもらうよう説明している。利用者によってダンスや仏壇を持ち込んでいたり、壁にご家族や兄弟と一緒に撮った写真を飾っていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人ひとりの生活のあり方を尊重して、自室での暮らし方を自分らしく過ごしてもらうために、スタッフがあまり介入せずに自由な生活が送れるようにしている。	
			(外部評価)	